

先進地調査等報告書

令和4年10月7日

天童市議会議長様

会派名 清新会

代表者氏名 鈴木照一



下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期 間	令和4年9月26日（月） から 令和4年9月28日（水） まで
調査（視察）先 調査項目	①埼玉県熊谷市 「シティプロモーション及び移住定住の促進について」 ②群馬県富岡市 「世界遺産「富岡製糸場」を核としたまちづくりについて」 ③栃木県那須塩原市「議会改革の取り組みについて」
調査（視察）目的	①熊谷市のシティプロモーションと移住定住のための政策について伺う。 ②世界文化遺産「富岡製糸場」周辺のまちづくりと観光振興について伺う。 ③議会改革実行計画と「議会の見える化」「開かれた議会」議会改革の活動や課題等への対応等を伺う。
市政との 関連性	①人口減少は全国的なテーマであるが、熊谷市で取り組んでいる移住定住等の企画を参考にしたい。 ②天童市にある文化財や日本遺産認定「山寺が支えた紅花文化」等、歴史を生かしたまちづくりの参考にしたい。 ③天童市議会で進めてきた議会改革について、議会改革の先進地である那須塩原市の議会改革を参考にしたい。
調査（視察）内容	①熊谷市総合計画のリーディングプロジェクトの最初に位置付けられているシティプロモーション。都市間競争が激化する中、多くの自治体の中から選ばれる都市であるため、熊谷市の特色や独自の取り組みを市内外にPRし、魅力ある都市であることを積極的にアピールしている。これは熊谷市の独自性と優位性を市民が認識し、定住促進にもつながると期待される。主に関東圏において年間購読者500万人の電子雑誌に熊谷市特集を掲載し、ターゲットを絞り込み熊谷市の魅力を発信している。 移住定住支援では、「熊谷市に転入した方」、「住宅を購入・リフォームした方」、「新生活を始める方」、「出産・子育て支援」、「学ぶ」と分類し、必要な情報をわかりやすくまとめた「移住定住 熊谷くらしの読本」という冊子等を作成している。「定住人口増加のための固定資産税等の課税免除」、「スマートハウス補助金」、「三世代ふれあい家族住宅取得等応援事業」、「新幹線ら

く賃通勤事業」等の施策を通して、将来にわたって暮らし続けることができるよう、利便性の高い地域づくりを目指し、若年層の転入促進・転出抑制に取り組んでいる。



②富岡製糸場の世界遺産登録を機に多くの観光客が訪れるようになったが、限られた範囲での回遊にとどまり、その効果を市内全域にまで波及させるために、富岡製糸場や妙義山を拠点とした市内観光資源の魅力向上と情報発信など、全市にわたる継続的な観光振興への取り組みが必要となっている。富岡製糸場は、首都圏から近い世界遺産として認知度も高く、一定の来場者があるものの、世界遺産に登録された2014年をピークに来場者数が右肩下がりとなっている。これは明確なターゲットを設定しない中で富岡製糸場への

訪問を目的とした誘客となり、場当たりの施策展開となってしまったことで、市内の他の観光施設へ誘導できていないため、市内全域へ経済効果が波及していない。そこで、富岡を「日本近代化の原点」としたブランディングを行い、目的地を「富岡製糸場」から「富岡」へとする誘客施策を展開し、明確なターゲットを設定した上で、「富岡」が日本近代化の原点であることを認知してもらう施策を展開するとともに、新たな誘客シナリオを作成して観光客を市内全域に波及させる。

世界遺産富岡製糸場の国宝「西置繭所」の保存修理が完了し、資料展示室と多目的ホールが整備され、展示会、コンサート、会議等に活用されている。富岡製糸場付近の整備として、「資産登録区域」と「緩衝地帯」を設定し世界遺産を保護している。景観計画を策定し区域内の構造物の高さ、色彩に制限を設けている。景観を形成するため区域毎の助成金制度も設定している。



③市議会としての活動の振り返り、目標の達成度を評価するとともに、課題の把握と今後取り組むべき事項を明らかにするため議会基本条例の検証を行う。議会運営委員会で検証スケジュール及び実施要領を確認し、検証シートを作成する。

具体的な検証手順は、「検証手順の決定(議運)」、「検証チェックシートによる自己評価」、「PDCA サイクルシートによる目標、成果、改善点の整理」、「第三者による外部評価」、「検証作業のまとめ及び検証資料の公表」

市民意見の把握や政策の提言・立案へと繋げていく仕組みや取り組みが十分でないことから、市民の負託にこたえる議会の実現に向け、「取組実行計画」を策定して「議会の見える化」、「開かれた議会」、「議会改革」の活動を通じて、市民意見の市政反映に取り組む。

具体的な手順は、「取組実行計画の策定」、「議会活動等の実施」、「実施内容と計画の比較・評価」、「改善策の検討」

議員が自己の地位による影響力を不正に行使し、自己又は特定の者の利益を得ることのないように、必要な事項を定めることにより市政に対する市民の信頼を確保し、もって公正で開かれた民主的な市政の発展に寄与するため「政治倫理条例」を制定する。

特筆すべきものとして「資産公開」がある。

(1)資産

- ・土地(所在、面積、固定資産税の課税標準額)
- ・建物(所在、床面積、固定資産税の課税標準額)

(2)税の納付状況

- ・前年度分の市県民税
- ・固定資産税
- ・軽自動車税
- ・国民健康保険税

議会報告会は、年2回、常任委員会毎に実施している。「議会報告会」は学校方式、「意見交換会」は車座型のワークショップ形式を採用している。意見交換の共通テーマを設定している。平成30年からワールドカフェ方式を導入している。会場は、参加しやすさを考慮し公立公民館は不使用。コロナ禍で対面開催ができない代替え案として動画配信(YOUTUBU)を実施している。市議会HPに議会報告会専用ページを作成し配信している。

オンライン会議を導入するまでの経過は、議会運営委員会でオンライン会議が実施できるように会議規則の改正を発議することを承認。直近の定例会で会議規則を改正。執行部にてZOOMアカウント(有料)を購入。議会運営委員会で全議員と議会事務局職員のタブレット端末にZOOMアプリのインストールと設定を行うことを決定。直近の定例会で全議員と議会事務局職員

のタブレット端末に ZOOM アプリのインストールと設定を行い現在に至る。

市民に親しまれる議会を目指し、議場コンサートを年2回(6月、12月)実施している。議場へ足を運び議会を知ってもらうきっかけとするともに、那須地区で活動するアーティストの情報発信の場とする。主な演奏内容はクラシック、雅楽等。中学校吹奏楽部にも開放している。



市 政 の 課 題
へ の 参 考 等

①「熊谷市に転入した方」向けの「新幹線らく賃通勤事業」、「固定資産税等の課税免除」、「住宅を購入リフォームした方」向けの「3世代ふれあい家族住宅取得等応援事業」、「スマートハウス補助金」、「出産・子育て支援」は本市が取り組む支援事業と同様の事業を展開しているが、「自転車おでかけ事業」や市独自の「不妊治療費助成」、「産後ケア」等は参考にしたい。
また、年間購読者500万人の電子雑誌に熊谷市特集を掲載して熊谷市の魅

	<p>力を発信しているが、ターゲットを絞った取り組みは参考にしたい。</p> <p>②現状分析から課題と対策を精査し、観光客の目的地を「富岡製糸場」から「富岡」へとするための多様な誘客施策を展開し、明確なターゲットを設定した上で、各種施策を展開するとともに、新たな誘客シナリオを作成して観光客を市内全域に波及させようとする取り組みは参考にしたい。</p> <p>富岡製糸場付近は「資産登録区域」と「緩衝地帯」を設定し世界遺産を保護・整備していた。日本遺産認定の「山寺が支えた紅花文化」は広域的な取り組みとなり本市のみの対応では効果は限定的だが、若松寺付近の保護・整備は県との連携が必要となるが、本市独自の対応で観光資源としての若松寺のブラッシュアップは可能ではないか。富岡市が取り組まれている景観計画を策定し区域内の建造物の高さや色彩に制限を設け、区域毎の助成金制度を設定し、景観を形成する取り組みは参考にしたい。</p> <p>③市議会としての活動を振り返り、目標の達成度を評価するとともに、課題の把握と今後取り組むべき事項を明らかにするため議会基本条例の検証を行うことは必要なことで、天童市議会として那須塩原市議会の取り組みを採用してはどうか。議会報告会の運営方法として車座型のワークショップ形式やワールドカフェ方式は導入に向け検討したい。また、市議会ホームページに議会報告の専用ページを作成し動画配信する取り組みは参考にしたい。オンライン会議を導入するための手順と必要事項はすぐにでも採用したい。議場におけるミニコンサートなどの市民への開放事業は、議場へ足を運び議会を知ってもらうきっかけとなり、市民に親しまれる議会に繋がるものと実施に向け検討したい。</p>
感想等	<p>①本市もシティプロモーションに取り組み、PR動画やSNSでの本市の情報を提供している。幅広く全方位に向けて情報発信することは一定の効果が期待できるが、人口減に対応するためには移住定住人口に効果のある世代へのピンポイントの情報発信ではないだろうか。費用対効果も検証しなければならないが、ターゲットを絞った情報発信は参考にしたい。また、生産人口への事業予算を増額し子育て支援と移住定住支援を拡充することは、持続可能なまちづくりを進める上で避けられない。生産人口への子育て支援は、将来的に高齢世代の社会保障を支える社会基盤を強固にすることになり、決して世代間の分断を助長するのではないと信じている。</p> <p>②富岡製糸場の来客数は世界遺産登録後に減少傾向にあるが、職員はコスト意識が高く、独自採算を目指し取り組んでいる。現状分析から多くの課題を洗い出し、そこから新たな誘客施策を展開している。本市も各種施策を策定するにあたり事業の目的と効果を示すが、最初の分析が大切であり、ここに誤りがあれば、どんなに愚直に事業を展開しても期待する効果は得られない。正しい現状分析に基づく施策であるよう議会としてのチェック機能の強化が求められる。</p>

	<p>③天童市議会も議会基本条例を制定し、条例に基づき議会活動を展開しているが、この議会活動内容を客観的に評価する仕組みがない。那須塩原市議会の検証方法を参考にできないものか検討する必要がある。ミニコンサート等に議場を開放することは、多くの市民に議会に興味を持ち、議会を知っていただくきっかけになるものと期待したい。実施に向け検討したい。</p>
--	---

令和4年度清新会視察等報告書

令和4年10月11日

天童市議会議長 様

水戸 保

埼玉県 熊谷市

○ シテイプロモーション及び移住定住について

人口減少対策としていろいろな補助事業を展開、一例として都心まで新幹線で40分台とのことで、10代・20代の若者が流出しないよう通勤・通学の不便さを補うため、新幹線の定期券購入の一部分を（東京まで4万円を最大2万円/月・最長7年間）新生活を始める方に助成するという。

また、議会の提案で高齢者を見てもらえるよう、市内で同居又は近居し、新築・増改築した場合費用の一部を助成のほか、熊谷市で使える25万円の商品券を補助する等があった。これら数多くの定住促進対策の補助を見れば、都心に近い自治体がゆえに人口流出の危機感を持っているんだと考えさせられた。

群馬県 富岡市

○ 世界遺産・富岡製糸場を生かしたまちづくりについて

平成26年に世界遺産登録となった年度は見学者が約130万人であったが、コロナ等の影響もあり令和3年度には約22万人と減少しているという。

世界遺産となれば補修しながら維持管理していかなければならず、60万人の入場者が必要となり担当課は財政状況を考え頭を抱えていた。

また、景観保護のため緩衝地帯を作らなければならず、地区計画においても建築物を更新しやすくし、街並みを活かすための規制と緩和が必要という課題を抱えていた。

栃木県 那須塩原市

○ 議会改革について

コロナ禍の非常事態宣言を受け、タブレットの有効活用を検討するため議会運営委員会で、会議規則の改正発議を承認し令和2年6月定例会にてオンラインの方法による会議の開催が可能になる。

オンラインは委員会及び協議会または、調整を行うための会議を開催できるという限定があり、ズームを活用しての会議が本格化している。

ズームに対しては情報が錯綜し混乱するのではないかと、不安の声もあったが議会は公開しているので問題なしとオンライン会議を続けている先進的な議会であった。

本市議会もタブレットの有効活用を活かすため早急に倣うべきだと感じた。

会派行政視察報告

清新会 山崎 諭

熊谷市「シティプロモーション及び移住定住の促進について」

国の人口が減少している中、各自治体間で人口の奪い合いのような形になっているが移住定住を促進するために首都圏に位置する熊谷市においても様々な事業を展開していた。天童市と似たような事業も多くあったが、若い世代・子育て世代へのアピール度が高いと思われたものに、幼児二人を同乗させることができる自転車もしくは幼児用座席を購入した等の方に対象自転車購入費の半額を助成する「子育て応援自転車お出かけ事業」や出産後一年未満で心身の不調や育児不安がありながらも家族などから家事・育児の支援を十分に受けられない方が医療機関に宿泊または通所で心身のケアや育児のサポートを受けられる「産後ケア事業」があった。高齢化率が高まる中、生産年齢層をいかに増やしていくかこの自治体も正念場である。

富岡市「富岡製糸場を核としたまちづくりについて」

富岡製糸場はまちの中心地である富岡市富岡一丁目一番地に位置しまちの核となってきた。明治五年に作られた官営の製糸場として教科書にも載っているのが大抵の日本人は覚えている施設だ。平成26年に世界遺産へ登録されマスコミでも大々的に取り上げられたことなどによりその年の観光客は133万人を越すほどになったが、以後は減少を辿り4年目で半数ほどになり、その後はコロナ禍に遭遇したとはいえ下火になった現在もなかなか元には戻っていない。

製糸場周辺のまちづくりとして平成14年に富岡中央地区土地区画整理事業の事業認可告示がなされ、平成14年から16年まで公共施設充当用地の先行取得が行われたが、平成15年から世界遺産への登録のための運動が始まると「開発」か「保存」かの話し合いが始まったがお互い平行線のままで折り合いがつかずに休止となり、平成25年にユネスコの調査機関であるイコモスの現地調査があり都市計画決定が廃止となったために先行して買収していた土地が残ってしまった。ここからまちづくりの手法を「開発型の区画整理事業」から「地域資源を生かしたまちづくり」へと転換を図り世界遺産の保護を至上命題として、登録資産である富岡製糸場とそれを保護するための周辺を緩衝地帯とし、建物等の高さや色彩に規制を加えて制限しながら古民家をリノベーションしたり以前に栄えた飲食街や路地を活かしたまちづくりを行っていたが観光の振興としてはリピーターを期待できるような工夫、回遊できる観光施設の組み合わせの工夫が必要と思う。

那須塩原市「議会改革について」

視察内容については議会運営委員長と副委員長が説明してくれて内容についても詳しく思ったと思う。議会の見える化については、小学生の議会探検や中学校への出前講座・高校生との意見交換を行っており参考にできると思う。議員の資産公開として土地・建物と納税証明書の公開があったが必要性があるかは疑問に思う。令和3年5月から通年議会をとり入れていたがさしたるメリット・デメリットが感じられず必要とは思われなかった。

議会基本条例の検証については1年2か月をかけて実施しており委託料を払って外部評価も受けていたが市民目線も必要なのではと思う。本市も制定後年月が経っているので行う時期になっていると思う。

オンラインによる常任委員会審査を行っていたが、全国的にDXへの機運が高まっている折なので本市でも考慮すべき時期なのだろうか。

提出日 令和4年10月5日

提出者 山口桂子

◆ 令和4年9月26日（月） 埼玉県熊谷市 シティプロモーションについて

熊谷市は、多くの自治体の中から「選ばれる」都市になるよう、移住定住の促進に向けた施策をリーディング・プロジェクトに位置付けています。

はじめに、総合政策調査課の長谷川課長から、人口減少総括として、熊谷市は出産が少なめで転出する方や亡くなる方が多いことで、人口が減少していることから、10代から20代の人口が減っているということの説明がありました。

就業の機会を増やし、子育て、転入、定住してもらうための施策、そして、結婚・出産・子育て支援の施策を一つにまとめたリーフレット「熊谷ライフスタートのための補助金ガイド」は、とてもわかりやすく、大変魅力あるものになっていました。

また、在来線で熊谷から東京までは76分かかるが、新幹線を利用すると37分で通勤・通学できるということで、特急料金月額40,000円の2分の1の20,000円を補助する施策を行っています。

また「大好き熊谷企画」として、学力向上にも力を入れ、くまなびスクールを設置し、教員OB・大学生を各学校に配置しているとのことでした。

そして、旅の魅力を電子雑誌や動画・紙冊子でナビゲートする「旅色」に、熊谷市の観光情報が掲載されており、若い女性を中心に読まれています。

総務部資産税課の間宮主幹からは、熊谷市定住人口増加のための固定資産税等の課税免除については、この制度が住宅購入の決め手になったとのアンケートに対し、毎年3割の方が「はい」と答えており、免除期間や年齢が40歳未満であることの制限はあるが、定住効果がある大変興味深い施策だと感じました。

長寿いきがい課の小澤課長からは、人口193,473人のうち、65歳以上は58,302人で高齢化率は30.13%であると説明を受けました。

熊谷市三世代ふれあい家族住宅取得等応援事業は、親世帯と子世帯が市内で同居または近居し、住宅を新築・購入した場合に、熊谷市商品券で補助金交付対象費用の1%を補助するものです。山形も三世代で暮らしている家族は全国にみて多い方の県なので、これからの時代、三世代でくらす方々への補助として時代にマッチした施策であると思いました。

環境部・環境政策課の中島主査からは、太陽光発電システム等、再生可能エネルギー・省エネルギー設備設置の補助金の説明がありました。他の事業と関連させて利用することも可能なので、大変いい事業だと考えられます。

今回のシティプロモーションについて、改めて人口減少への取り組みを通して考えさせられることも多く、各課の事業の取り組みを毎年検証して、継続するものは継続し、時代に合わせた細やかな施策をしなければならないと考えました。まちの魅力を発信する力、関係人口や交流人口への取り組みなど、天童市においても総合戦略のあり方について大変重要であると考えられる機会となりました。

ご説明いただいた熊谷市役所の方々に深く感謝申し上げます。

◆ 令和4年9月27日（火） 群馬県富岡市

世界遺産・富岡製糸場を生かしたまちづくり

富岡市では、世界遺産・富岡製糸場を生かしたまちづくりについて、また観光客誘致についての政策、観光振興と景観づくりについて、そして旧富岡倉庫におけるにぎわい創出についてお聞きしました。

富岡市は、人口46,518人（令和4年9月1日現在）で、当初予算額は219億8千万円、養蚕をはじめ農業や機械製造、食品加工などの工業を産業としています。

歴史的建造物の整備を官民連携で行い、平成25年3月28日には、都市計画決定を廃止し、開発型の区画整理事業から、地域資源を活かしたまちづくりに大転換しました。

景観形成助成金制度も積極的に取り入れているようです。また、古民家をおしゃれなカフェにしたり、官民連携によるリノベーションまちづくりも行っています。

富岡市役所前は、広い芝のオープンスペースになっており、イベントやマルシェなど地元の方や観光客が楽しめるスペースにして、より歩いて楽しめるまちになっていました。

旧富岡倉庫の1号倉庫（レンガ瓦造）、2号倉庫（石造）、3号倉庫（土蔵造）もそれぞれに活用し賑わいを創出しています。

世界遺産・富岡製糸場の視察研修においては、富岡製糸場の歴史や建造物の保存・活用、そして観光まちづくりについて詳しくお聞きすることができました。

実際のまちづくりを拝見し、まちがとても歩きやすかったことや、歴史を大切にしながら、持続可能な地域をつくるために、発想や取り組みを今までの既成概念にとらわれることなく、あるものを活用し、稼ぐ仕組みをつくっていかうという取り組みが大変ためになりました。

歴史を守っていくことは、未来のまちを守っていくことだと考えます。

ご説明いただいた富岡市役所ならびに富岡製糸場関係者の方々に深く感謝申し上げます。

◆ 令和4年9月28日（水） 栃木県那須塩原市

議会改革について

- 議会の「見える化」「開かれた議会」について
- 議会基本条例の検証と議会取り組み実行計画について
- オンラインによる常任委員会等の開催について

那須塩原市は、議会基本条例の検証ならびに議会取り組み実行計画において、第14回「マニフェスト大賞」を受賞している議会改革においては先進地です。また、議会改革度調査2021 総合ランキングでは総合19位で、住民参画においては総合9位です。

平成19年4月に議会活性検討委員会が設置され、平成21年6月には議会活性化委員会設置、平成24年に那須塩原市議会基本条例制定、平成25年4月に議員定数委員会設置、平成27年11月に議会報告委員会が設置されました。

那須塩原市は、議会BCPを策定し、通年議会を行っています。議員間討議においては、いろいろな問題が生じた時に気付いた段階で、条例を変えているということでした。

議会基本条例検証では、PDCAサイクルシートを活用し、議会活動のマネジメントサイクルが計画されており、市民の負託にこたえる議会の実現を確かなものにするための政策の提言や立案が取りまとめられています。

また、「市民の声こそ議会の宝」をキャッチフレーズに「なしおふれあいトーク」という那須塩原市議会報告会・意見交換会を実施しています。議会報告会への積極的なPR動画も楽しく身近なものになっており、オリジナル満載でした。

コロナ禍の中、議員が議場に集まらなくても議会の運営ができるように、タブレットを積極的に活用しオンライン会議を行っており、実際の映像も拝見させていただき大変ためになりました。

今回の研修では、議会運営委員会の齊藤誠之委員長・星宏子副委員長の熱心な説明をお聞きし、レベルの高さに感心させられるとともに、天童市議会でも議会運営、議会活動について取り入れていけるものは参考にしていければと思いました。

ご説明いただいた那須塩原市役所ならびに議会運営委員会の方々に深く感謝申し上げます。

令和4年10月16日

天童市議会議長殿

清 新 会

遠 藤 敬 知

令和4年9月26日（月）から9月28日（水）の会派視察が終了したので報告します。

9月26日（月） 埼玉県熊谷市

シティプロモーション及び移住定住の促進について

9月27日（火） 群馬県富岡市

世界遺産「富岡製糸場」を核としたまちづくりについて

9月28日（水） 栃木県那須塩原市

議会改革への取り組みについて

埼玉県熊谷市

シティプロモーション及び移住定住の促進について

熊谷市は荒川と利根川が流れるほぼ平坦な地形で、古くは中山道の宿場として栄えた。夏の最高気温が高く、猛暑のまちとして知られ、ラグビーを活かしたまちづくりを進める。人口約19万3千人で議員定数は30名。

*人口減少の現状と課題

- ・ 市外へ転出する要因として、市内公共交通（電車、バス）に対する市民の不満。
- ・ 自然動態のマイナス(年間1,000人ペースの死者)。
- ・ 合計特殊出生率低下（国や県の平均を下回る）
- ・ 20代から30代の女性の転出が顕著。
- ・ 通勤・通学の不便性。
- ・ 市内産業数（製造業や卸売業、小売業）の低下による空洞化。

*課題解決に向けた3つの基本目標

1. 就業機会を増やす

働く（働きたい）人が働き続け、暮らし続けられる雇用の創出。

2. 転入・定住促進

子育て世代等にとって暮らしやすく魅力的なまちづくりの展開。

3. 結婚・出産・子育て支援

子育て世代等の結婚・出産・子育てに関する希望をかなえる。

*主な施策

- ・ おいでよ熊谷！新幹線らく賃通勤事業（新幹線定期券購入の一部、最大2万円/月）
- ・ 定住人口増加のための固定資産税の課税免除事業（40歳未満で転入し住宅購入。住宅により3年～7年間）
- ・ 結婚新生活支援事業（所得400万円以下、一世帯あたり上限30万円）
- ・ 誕生祝金の支給事業（誕生月から1年期限、1人3万円）
- ・ 三世代ふれあい家族住宅取得等応援事業（三世代家族同居又は近居、住宅の新築・購入・増改築、最大25万

円分の商品券)

他、約40事業を実施し、進学・就職時の転出抑制・結婚・出産・子育て世帯の転入とUターンの促進を図っている。

◎ 全ての自治体の課題である人口減少克服に向け、各課連携して横断的に取り組んでおり、本市でも実施している事業も多くあるが、約40事業は子育て世代をターゲットにしており、年間事業費は約35億5千万円で当初予算の約5%にあたる。

8年目となる固定資産税の課税免除事業は、一定の効果があるようで、新規摘要件数、新規摘要転入者数も年々増加しており令和4年度の新規免除額は2,772万円となっている。アンケート結果でも課税免除制度が住宅購入の決め手になったと答えた割合が、毎年約3割あるとのことで、この課税免除制度の条例改正を3回実施して、適用期限を延長している。

ちなみに、熊谷市のふるさと納税は、税負けしているとのこと。

東京圏の埼玉県内、新幹線で東京まで37分という熊谷市も、人口減少という課題解決に向け本市と同様の子育て支援施策を展開している。人口減少時代の中、克服に向けた複合的な施策は、持続可能な行政運営には必要ではあるが、自治体間のサービス合戦には限界があると考え。人口減少時代を止める特效薬は無い訳だが、やはり国による一定の制度転換が必要と考える。

群馬県富岡市

世界遺産「富岡製糸場」を核としたまちづくりについて

富岡製糸場は1872年に官営として操業し、製糸の産地として繁栄。

富岡製糸場と絹産業遺産群は平成26年にユネスコ世界遺産に登録。人口約4万6千人で議員定数は18名。

* 世界遺産登録前の製糸場周辺のまちづくり

官民連携の富岡中央土地区画整理事業を平成14年8月1日に事業認可告示。約12haの区画整理区域の内、優先整備地区である約1/2の約6.2haを施行地区面積として、総事業費98億3千万円で、施工期間を平成14年度から平成27年度とした。しかしながら、世界遺産への様々な制限等があり、3年間の公共施設充当地の先行取得のみで以後休止となり、平成25年3月28日都市計画決定の廃止となる。

* 世界遺産の保護

開発型の区画整理事業から地域資源を活かしたまちづくりが求められた。

・ 資産登録区域（富岡製糸場）

世界遺産の登録区域内の適切な保護措置及び管理体制。

・ 緩衝地帯（バッファゾーン）

登録資産を保護するため、周辺の環境や景観の保護・保全のため、利用を制限する地域が求められる。

* 富岡市景観計画

・ 市内全域を景観計画区域に指定、さらに製糸場周辺を特定景観計画区域に指定。（高さと色を制限）

・ 屋外広告物条例と太陽光発電設備設置条例を施行。

・ 景観形成助成金制度を創設し、歴史的まちなみを活かす。

◎ 富岡製糸場周辺の現状と課題

景観条例や景観助成金により、外観の補修は進んできているが、空き家・空き店舗等が多く存在。

又、耐震性・防火性が低い老朽建築物が多くある状況。さらに、用途地域の指定のみで、好ましくない用途や高さ、意匠等を完全に規制できていないのが現状である。今後、建築物を更新しやすくし、まちなみを活かすための規制と緩和が必要とのこと。見学料金のピークは、平成27年度の約10億円で、見学者数114万4千人であったが、昨年の令和3年度は、約1億5千万円で22万3千人と激減しており、採算面から既にあるものを活用した官民連携によるリノベーションのまちづくりに重点を置き、製糸場内の活用や、市庁舎、古民家、古い街並み等を活用して市内周遊策に取り組んでいるが、その効果の程は不明である。

今年が製糸場設立150周年、現在の養蚕農家は10軒で、全て行政で育成している。

世界遺産としての存在自治体の知名度は絶大であるが、一方、様々な制限と永続的な維持、修復費を伴うものであり、今後も自治体の資金的な苦勞が絶えないものと感じる。

栃木県那須塩原市

議会改革への取り組みについて

那須野が原の自然に恵まれた高原都市。酪農が盛んで、生乳生産は本州一を誇る。人口約 11 万 5 千人で議員定数は 26 名。

* 議会改革の取り組み状況

- ・ 議会基本条例の制定（平成 24 年 3 月）
- ・ 議会報告会の実施（平成 24 年 8 月に初実施）
- ・ 議員定数を 30 名から 26 名に改正（平成 25 年 4 月選挙より実施）
- ・ 議会倫理条例の制定（平成 27 年 3 月）

資産公開として、資産内容と税の納付状況を公開している。

* 議会改革度の更なる向上への取り組み

- ・ 議会運営委員会議事録のインターネット公開。
- ・ 会派視察報告者のインターネット公開。
- ・ 政務活動費の「会計帳簿・領収書」のインターネット公開。
- ・ 本会議における傍聴人名簿の記入省略。
- ・ 特定議題に対するパブリックコメントの導入。

* 議会運営委員会による更なる取り組み

- ・ 議会基本条例の検証（検証シートの作成）
- ・ 平成 31 年度よりタブレット端末導入
- ・ 通年議会の検討（令和 3 年 5 月定例会より導入）

* 議会報告会の取り組み

議会報告会は、学校方式を基本とし、意見交換会は多くの意見が出やすい連座型のワークショップ型式で

共通のテーマを設定。会場については、公民館だけでなく、参加しやすさを考慮して、ワールドカフェ方式

とし、名称も「なしおふれあいトーク」としてフォーラム形式を導入。コロナ禍の対応として、ホームページに専用のページを作成して、動画とアンケート機能を付しての ICT を活用した、オンライン議会報告会を開催。直近では、広報に力を入れCM まで作成している。

* 小中高への取組み

高校生との意見交換、中学校への出前講座、夏休み子ども議会探検会を開催。

* 議場コンサートの開催

開催目的を市民に親しまれる議会を目指し、議場へ足を運び、議会を知るきっかけをつくるとして、年2回でこれまで15回開催。

* 議会報の刷新

「議会だより」から「ぎかいのひととき」へタイトルを変更し、市民へのインタビューコーナーを新設。一般質問のページに QR コードを掲載。

* 議会基本条例の検証

- ・ 前文から全条項をチェックシートで検証。
- ・ PDCA サイクルシートによる目標・成果・改善点を整理し、第三者（早稲田大学マニフェクト研究所）による外部評価を経て検証作業をまとめて検証資料の公表を行っている。

◎ 議会改革については様々な取り組みを競うように実施しているが、市民の目を気にしたパフォーマンス的な改革が多く、どの自治体もほぼ同様の内容であり、真に必要なかは大きな疑問である。

改革の基本となる芯棒をしっかりと整えたならば、多くの文言ではなく、議員一人一人の日々の心掛けと行動の実践であり、市民からの批判があるとすれば、それは議員たる個々人の責任と考える。

先進地調査等報告書

令和4年10月7日

天童市議会議長 様

会派名 清新会

水戸 芳美

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期 間	令和4年9月26日（月）令和4年9月28日（水）まで
調査（視察）先 調査項目	◎視察地 1、埼玉県 熊谷市 2、群馬県 富岡市 3、栃木県 那須塩原市 ◎視察内容 1、「シティプロモーション及び移住定住促進」について 2、「世界遺産・富岡製糸場を生かしたまちづくり （観光・地域振興）」について 3、「議会改革」について
調査（視察） 内容	1、 埼玉県 熊谷市 <特色> ・人口 195410 人、面積 159.82 km ² で、埼玉県の北部に位置し、荒川と利根川が流れるほぼ平坦な地形である。新幹線や幹線道路も集中しており、県北部の経済の拠点となっており、猛暑のまちとしても知られる。 ★自然動態では、生まれてくる人より亡くなられる人方が約 1,000 人多く、社会動態は、転入者より、転出者が多く、合計特殊出生率は、1.36%と全国や県レベルでも低い状況である。10 代後半から 20 代前半の人の転出が多いという課題もある。そのため、3 つの方針を掲げ活動している。

- ①働く人が働き続け、暮らし続けられる雇用の創出。
- ②子育て世代等にとって暮らしやすく魅力的なまちづくりの展開。
- ③子育て世代等の結婚・出産・子育てに関する希望をかなえる。の3つである。

<支援事業>主なもの

●転入した方への事業

- 1) おいでよ熊谷、新幹線らく賃通勤事業
 - ・首都から新幹線だと37分掛かる。40才未満で住宅を購入して転入され新幹線を利用している方へ2万円/月、最長2年の補助をしている。
- 2) 定住人口増加のための固定資産税等の課税免除
 - ・40才未満で転入し住宅を購入した方には、住宅部分の固定資産税等の免除をしている。

●住宅の購入、またはリホーム補助

- 1) 3世代ふれあい家族住宅取得等応援事業
 - ・住宅購入などをし、3世代以上の家族で同居近居されている方に25万円の商品券を配布している。
- 2) 住宅リフォーム資金補助制度
 - ・市内業者による20万円以上の工事に対して、経費の5%、上限10万円の商品券

★再生可能エネルギー・省エネルギー設備等を設置した場合の補助金

- 3) 太陽光発電システム
 - ・2万円/kW、上限10万円の商品券
- 4) 家庭用蓄電システム
 - ・経費の5%、上限5万円の商品券
- 5) 家庭用燃料電池システム（エネホーム）
 - ・経費の5%、上限5万円の商品券
- 6) 電気自動車充電設備（V2H）
 - ・経費の5%、上限5万円の商品券
- 7) スマートハウス補助金
 - ・30万円、内15万円商品券

●新生活を始める方

- 1) 大好き熊谷、新幹線らく賃通勤事業
 - ・新幹線定期券購入費の一部、最大2万円/月、最長7年
- 2) 新婚新生活支援事業
 - ・40才未満の新婚世帯、住居費、引っ越し費用の一部上限30万円

●出産子育て支援

- 1) 子ども医療費の助成
 - ・0才から高校3年生までの医療費の助成
- 2) 子育て応援自転車おでかけ事業
 - ・幼児2人用同乗自転車、または幼児用座席を購入した方、購入費の半額、上限3万円
- 3) 誕生祝金支援事業
 - ・3万円
- 4) 不妊治療費助成
 - ・10万円/年を上限に通算5年間

<p>市政の課題への参考等</p>	<p>5) 早期不妊検査費等 <ul style="list-style-type: none"> ・不妊検査及び不育症検査を受けた夫婦、1回かぎり 3万円 6) 不育症治療費助成 <ul style="list-style-type: none"> ・30万円/年を上限に通算 5年間 <p>以上のような各種補助事業がある。</p> </p>
<p>調査（視察）内容</p>	<p>●どこの市町村も同じであるが、熊谷市も自然動態の差が大きく、また、社会動態の転出者が多く、転入者で、自然動態の差をカバーできなく、人口減少が著しく進んでいる。そこで、目指すべき将来像として、雇用の創出、子育て世代等の結婚・出産・子育て、そして、子育て世代が暮らしやすいまちづくりの展開を図ってるようだ。熊谷市は、東京から遠くなく、新幹線で 37 分と通勤するのに、それほど時間が掛からないため、熊谷市に転入して住宅を購入した人に対して、新幹線定期券の補助を行っている。大都市から移住・定住につなげるための補助金として、新幹線定期券の補助事業は良い事業だと思った。天童市においても、仙台市は、100 万人都市で、天童から 55 km で 1 時間圏内にあり、移住定住のためのターゲットとして、ビジネスや、交流人口拡大も含め、大いに利用すべきと思う。また、住宅購入事業の中で、3 世帯ふれあい家族住宅取得等応援事業があり、3 世代以上の家族で同居又は近居される方を対象に上限 25 万円の商品券を配っている。山形県は、3 世代同居率が 13.9% で日本一ということもあり、この事業も参考にしたい。それと、住宅を購入した方を対象に、住宅部分の固定資産税等の免除事業も良い事業だと思う。若い世代で大きな金額の借金をして、住宅を建てる訳なので固定資産の免除は、大いに助かるので、移住定住促進の一つになっているのではないかと、参考にしたい。</p> <p>2、 群馬県 富岡市</p> <p><特色></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 46,717 人、面積 122.85k m²、明治 5 年（1872）年に官営富岡製糸場が操業し生糸生産として繁栄した。現在は、自動車関連産業が中心となっている。「富岡製糸場と絹産業遺産群」はユネスコ世界遺産に平成 26 年 12 月 10 日登録された。今年で開業から 150 周年。 <p>●富岡製糸場の見学者数と見学料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度：223,400 人、86,229,089 円 ・平成 26 年度：1,337,720 人、562,483,913 円、世界遺産登録 ・令和元年度：442,840 人、320,209,288 円、新型コロナ感染拡大 ・令和 4 年度：400,000 人、288,350,000 円、当初予算 <p>① 平成 26 年度、世界遺産登録の影響で、見学者数の激増が伺える。また、令和元年度から新型コロナウイルス感染拡大後、入場者数は逆に激減している。令和 4 年度の入場者数 40 万人の目標は少ないようだ。60 万人位の入場者が入ると、一般会計から補填せずに、</p>

老朽化している建物を計画的に改修しながら維持していけるということだった。

●世界遺産としての価値

- ・「富岡製糸場と絹遺産群」は 19 世紀中期から 20 世紀の養蚕・製糸分野の重要な技術交流と技術革新を、目に見える形で物語っている遺産群である。
- ・「富岡製糸場と絹遺産群」は、長い間生産量が限られていた生糸の大量生産を実現した「技術革新」と世界と日本との間の技術の「交流」を主題とした近代の絹産業に関する遺産である。
- ・日本が開発した絹の大量生産技術は、かつて一部の特権階級のものであった絹を世界中の人々に広め、その生活や文化をさら豊かなものに変えた。

●保存修理・整備活用工事

- ・工期：平成 27 年 1 月～令和 2 年 4 月
- ・工事内容：屋根の葺き替え、部分解体修理、建具等修繕
- ・工事費：約 35 億円（補助率、国 50%、県 25%）
- ・工事中も、工事を見学できた。

●文化財を活用

- ・2020 年 5 月富岡製糸場国宝「西置繭所」が長期にわたる保存修理・整備活用工事が完了し、同年 10 月から公開活用を始めた。
- ・1 階内部には、耐震補強用の鉄骨財を骨組みとしたガラスの部屋が整備され、飼料展示室と多目的ホールが誕生した。ガラスの多目的ホールは、世界遺産・国宝の中にある希少で特別なユニークベニューとなっており多様な活用を行っている。

●新たな財源確保

- ・富岡製糸場のシンボルである煙突は、築 80 年以上経過しており、保存修理が必要な状態である。
- ・世界遺産の煙突を維持継承するため、クラウドファンディングを実施した。

目標金額：80,000,000 円

結果：・ふるさと納税制度を利用、15,197,000 円、298 名

- ・市内企業及び団体、個人等の寄附、
20,509,500 円、企業団体 76 件、個人 18 名
- ・企業版ふるさと納税による寄附
447,000,000 円、市外企業 39 社
- ・合計 80,406,500 円（達成率 100%）

令和 5 年度事業着手予定。

- ・クラウドファンディングを利用して煙突の保存修理費の財源を確保したが、思っていたより好評で、早く資金が集まったようだ。

●歴史的建造物を活かす。（官民連携）

- ・世界遺産炉登録前の富岡製糸場周辺のまちづくりは、開発型の区画整理事業から地域資源を活かしたまちづくりへ手法の大変換をした。都市計画→平成 25 年 3 月 28 日廃止

★世界遺産の保護

- ・資産登録区域（富岡製糸場）
世界遺産の登録区域内は、適切な保護措置（国内法での保護）及び管理体制整っている。
- ・緩衝地帯（バッファゾーン）

<p>市政の課題への参考等</p>	<p>登録資産を保護するため、周辺の環境や景観なども保護・保全する必要のあることから、緩衝地帯を設定することが求められる。緩衝地帯とは、資産の景観や環境を重層的に保護するため、利用を制限する市域をいう。(都市計画法、景観報、景観条例などで制限する)</p> <p>★景観形成助成金制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観計画区域・市全域、1/2、 50万円 ・歴史文化的景観調和ゾーン、1/2、 80万円 ・歴史文化的景観調和ゾーン、1/2、100万円 及び旧街道街なみ誘導ゾーン、2/3、200万円 <p>●富岡製糸工場周辺の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○景観条例や景観助成金により、外観の補修は進んでいる。 ×空き家・空き店舗等が依然として多く存在。 ×耐震性・防火性が低い老朽建築物が多い。 ×用途地域(商業地域、近隣商業地域、第一種住居地域)の指定のみで、好ましく用途や高さ、意匠などを完全に規制できていない。 <p>※建築物を更新しやすく、まちなみを活かすための規制と緩和が必要である。</p>
<p>調査(視察)内容</p>	<p>●富岡製糸場が、世界遺産に登録されたことで、富岡市への観光客が大幅に増加したが、近くに宿泊施設や知名度のある観光地が無いことから、観光客は限られた範囲での回遊となり、経済効果が薄い。日本三奇勝の妙義山にも行ってもらうような、情報発信が必要となっている。また、世界遺産に登録されたことで、登録資産を保護するため、緩衝地帯を設定することが求められ、土地区画整理事業を廃止し、地域の資源を活かしたまちづくりへとシフトした。資産の景観や環境を重層的に保護するため、都市計画法・景観法・景観条例などで制限している。しかし、空き家や空き店舗等が多くあるのと、耐震性・防火性が低い老朽建築物も多く、建築物を更新しやすくし、まちなみを活かす規制と緩和が必要である。富岡市での取り組みで、官民連携で建造物を活かしたりノベーションは、天童市においても、古民家や、天童温泉街等で参考にしたい。</p> <p>3、 栃木県 那須塩原市</p> <p><特色></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 115,511 人、面積 592.74 km²、2005 年に黒磯市と 2 町が合併して発足。農業は高原野菜の栽培や酪農が盛んで、生乳生産は本州一を誇る。塩原温泉や塩原溪谷などの景勝地があり観光資源が豊富。 <p>●タブレットの導入(経過)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年パソコンやタブレットを議場や委員会室への持ち込みを許可し、令和元年 10 月からタブレット端末の導入をした。 ・令和 3 年度通年議会を導入し現在も運用している。

●議会報告・意見交換会

- (1) 平成 24 年から延べ 18 回の議会報告意見交換会を実施している。当初は、関心が高く多くの方が参加していたが、回を重ねるごとに減少傾向にある。
そのため、那須塩原トークという名称で議会報告意見交換会を実施したり、各地区の公民館会場でやっていたが、会場を変え何処の会場へも参加できるようにした。
- (2) アンケートに議員の考えが聞けないのはつまらないの意見があったので、ワークショップ形式から、ワールドカフェ形式に変えたことで、参加者と同じ目線で話し合うことが出来るようになった。
- (3) コロナ禍で、対面ではなく、インターネットを使った取り組みをした。議会の経過報告をビデオ作成し、それを配信して、それを見た人がメッセージを発信してもらう形式を取った。また、議会報告会の参加を促すコマーシャル動画を作成し配信している。
- (4) 小学生夏休み体験は、会議室を探検させたり、子どもたちにクイズ形式で議会について学んでもらい、最後に質問してもらうやり方で、1 回開催した。また、中学生の出前講座の実施を行った。
- (5) 高校は、意見交換した後、自分たちがでた意見を発表して終わりではなく、意見を公約と見た立てて、良いと思った物に投票してもらい、選挙管理委員会とコラボして実施している。

●議場コンサート（一般質問前）

- ・一般傍聴者が少ない。
- ・那須地区のアーティストの情報発信の場としている。
- ・年に 6 月と 12 月開催している。
- ・平成 26 年から始まり、コロナ禍で出来なかったこともあった 15 回開催している。
- ・延べ 440 名来場している。
- ・地元中学校のコーラス部なども参加してもらっている。

●議会だより

- ・議会だよりのタイトルを平成 29 年 11 月から、ぎかいのひとときに変えた。
- ・表紙の作新
- ・市民へのインタビューコーナーを設置
- ・特集記事を 2 ページ使っている。
- ・小学生に自分の夢を掲載している。
- ・一般質問等は、QR コードを付けて携帯などでも見られるようにした。

●議会基本条例（検証）

- ・平成 24 年 3 月制定
- ・条例の目的を達成しているのか。検証することの定めがあることから、議会運営委員会で決め、検証実施に至った
- ・条文に書いてある取り組みのふり返り、上位文の検証を実施し

<p>市政の課題への参考等</p>	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会派ごとに検証チェックシートによる自己評価 ・PDCA サイクルシートによる目標・成果・改善点の整理 ・第三者機関による外部評価 ・検証結果等のとりまとめ <p>●オンライン常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Zoomのアプリを入れ、サイドブックスの使用も同時に出来るようになった。 <p>●議会だよりの編集に関しては、市民のインタビューコーナーや、特集ページ、また、小学生の夢など、市民の皆さんに、議会だよりを通して身近に感じてもらうような取り組みは参考になった。</p> <p>また、一般質問の傍聴者の拡大に向け、一般質問前に、議場コンサートを開催していることは、一般市民が議場に足をはこび、議会の理解を深めるためにも良い取り組みと思う。</p> <p>議会報告・意見交換会は、全国どこの議会も、参加者が減少して対応を迫られているが、高校に出向いて、選挙管理委員会の協力のもと、生徒の意見を公約と見立てて、実際に投票を行っている事例は参考になった。また、小学生には、体験学習として、委員会室など見学してもらい、クイズ形式で議会を学んでもらうことなど、小さいうちから議会に興味を持ってもらうやり方は大変良いやり方と思った。それと、議会報告・意見交換会の参加者募集に関して、インターネットを使って自分たちで、コマーシャル動画を撮影しての参加者募集も参考になった。</p> <p>また、議会のオンライン化や議会基本条例の検証など参考にしたい。</p>
-------------------	---

清新会 行政視察（9月26日～28日）

武田 正二

1. 埼玉県熊谷市

○シティプロモーション及び移住定住促進について

- ・定住人口増加のために固定資産税等課税免除
- ・スマートハウス補助事業
- ・三世帯ふれあい家族住宅取得等応援補助金事業

●所感

熊谷市は現在 193,473 人の人口だが、減少傾向には歯止めがかかっていない。自然減少が年 1,000 人、10 代・20 代の都市部への流出も多く、若年層の流出に歯止めをかけたいということで、様々な補助金施策を行っており、ある程度の効果を得ている説明だった。どこでもバラマキの感は否めない。大都市近郊の埼玉県での話としては驚いた。全国各地での大盤振る舞い。東京一極集中を打破しなければ課題解決はないと、改めて心底思った。本市でも参考にとと思うが、財源には限りがあり泥沼にはまるようでやめたい。

2. 群馬県富岡市

○世界遺産「富岡製糸場」を核としたまちづくりについて

●所感

これまで「富岡製糸場」を世界遺産に、という市民・行政を挙げた活動をしてきた苦労は、語りつくせないものがあるということを感じてきた。景観行政団体へ移行・景観計画策定・景観条例・計画施行・市内全域を景観計画区域に指定等々。その結果であるが、如何せんである。来場者数は登録前 20 万人台、平成 26 年の登録時には 130 万人を超えたが、その後は減少の一途、新型コロナの影響もあり令和 3 年度は 22 万台となり、一般財源からの拠出も不可欠で、老朽化した建築物の修繕に頭を抱えている状況であった。ランニングコストが膨大であるが、収入（来客数）が追い付かないのが痛々しい。更なる検討と、打開策を期待したい。その上で本市での活用を検討するべきだと思う。

3. 栃木県那須塩原市

○議会改革について

- ・議会の「見える化」「開かれた議会」「議会改革」の取り組み
- ・議会改革基本条例の検証と議会取組実行計画
- ・オンラインによる常任委員会等の開催

●所感

本市での議会改革の活動と類似していると思った。しかし、早稲田大学マニユフェスト研究所によるランキングを意識していることから、項目ごとに数値化した取組みに邁進している点が、大きな違いである。5 年ごとに議会基本条例の検証を行い更なる改革を行っていたり、通年議会を導入したり、また Zoom で議運を開催するなどのオンラインによる委員会を開催している。さすがである。議会報告会の運営も、経緯は本市と似通っているが、現在のやり方として、会場ごとにテーマを設け、カフェ・フォーラム形式で参加者を募っていることには興味を惹かれる。加えて、コロナ渦においてユーチューブを活用した議会報告会は発想の転換として大いに評価したい。参考にしなければならない点は大いにあると感じた。議場コンサートを年二回開催していることには即、実行したいものだと思う。

先進地調査報告書

令和4年10月31日

天童市議会議長様

会派名 清新会 佐藤俊弥

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期間	令和4年9月26日（月）～ 令和4年9月28日（水）まで
調査（視察）先 調査項目	①埼玉県熊谷市「シテイプロモーション及び移住定住の促進について」 ②群馬県富岡市「世界遺産富岡製糸場を核としたまちづくりについて」 ③栃木県那須塩原市「議会改革の取り組みについて」
調査（視察）目的	①熊谷市のシテイプロモーションと移住定住のための政策について伺う。 ②世界文化遺産「富岡製糸場」周辺のまちづくりと観光について伺う。 ③議会改革計画の活動や課題について伺う。
市政との関連性	①熊谷市で取り組んでいる移住定住の企画を参考にしたい。 ②世界文化遺産に認定された「富岡製糸場」の新たな活用方法について伺う。 ③那須塩原市の取り組んでいる議会改革について参考にしたい。
調査（視察）内容	① 熊谷市は都市中心部へ通勤可能な位置にあることから利便性を重点としたPRを行い若者への転入促進につなげている。 ② 富岡製糸場が2014年世界文化遺産に認定され多くの観光客が訪れるようになった、明治5年に創業された製糸場は老朽化も進みクラウドファンディングなどを用いて煙突修理費用約八千万円を半年あまりで達成、内部には結婚式場やイベントホールなども整備されている。 ③ 那須塩原市議会の「みえる化」「開かれた議会」「議会改革」の取り組みやオンラインでの常任委員会などを行っている。
市政の課題への参考等	①都内に職場があり、熊谷市に転入された方に新幹線通勤補助など関東独自の取り組み方である。 ②本市の郡役所や西沼田遺跡の新たな活用方法など参考にしたい ③議会活動のなかで那須塩原市議会の取り組みについて参考にしたいのはオンライン会議や議会報告会の運営方法など。
感想等	①那須塩原市で取り組んでいる人口減少に対する移住定住の取り組みは関東地方で可能な事も含まれている。本市独自の特色を持った新たなプ

	<p>ランに向けた取り組みが必要な時期に入ってきたと考える。</p> <p>②富岡製糸場の職員はスキルが高かく丁寧な対応をしていただき感動しました。</p> <p>③那須塩原市議会では議会基本条例の検証と議会取り組み実行計画について、条例の目的が達成しているかを評価して、改正に取り組み、必要でなかったら廃止をすることも行っている</p>
--	---

以上

(感想)

今回の研修は、本市の課題や将来的に必要となる政策について、3つの先進地の事例を拝聴することができた貴重な内容であった。本市がこれまで取組んできた施策が、今回視察した先進地よりも進んでいる部分を知ることができたことから、今後も市民サービス向上に繋がるように、より効果的かつ効率的な政策等を推し進めていきたい。

研修の中でも、特に印象に残ったものは以下のとおりである。

1. 埼玉県熊谷市「シティープロモーション及び移住定住の促進について」

首都への交通アクセス1時間圏内にある熊谷市が推し進めているシティープロモーションの中から、「定住人口増加のための固定資産税等の課税免除」、「スマートハウス補助事業」「三世代ふれあい家族住宅取得等応援事業」の3つの住宅支援策の取組みについて伺った。人口減少や地元離れが深刻化する熊谷市において、定住人口拡大を目指し、特に40代以下の若い世代をメインターゲットに、固定資産課税免除、太陽光や長期優良住宅等のエコハウス支援、そして三世代同居や近居への支援策を進めている。

特筆すべき点としては、補助金の一部を熊谷市商品券「まち元気」を採用し、市内商業(1000店舗超登録)を活性化することを目的として用いている。

さらに、広報面においても、子育て支援策と移住・定住の支援策を取りまとめた冊子を制作し、移住定住や子育てといった相談窓口で活用している。

事業を行う中で、課題としてあげられたのは、担当部署が複数あることによりワンストップで対応できない点と、より効果的な周知方法を模索する必要があるとのことだった。

本市としては、子育て支援日本一を掲げていることから子育て世代に対して、移住定住における様々な施策を展開している中で、熊谷市の課題と同じくワンストップ対応が急務であると考えている。また、広報面においてもSNS対応や本市の支援策一覧をワンクリックで検索できるページを独自につくる必要があると考える。私個人としても、力強く推し進めていきたい。

2. 群馬県富岡市「世界遺産・富岡製糸場を生かしたまちづくりについて」

2014年にユネスコ世界文化遺産に登録された富岡製糸場を活用して、地域と一体となって観光客誘致・観光振興と景観づくりを行っており、富岡市のにぎわい創出を掲げている。今回は現地視察も行い、富岡製糸場の迫力ある施設と歴史を見学することができた。

特筆すべき点として、最寄り駅から富岡製糸場までの散策ルートにおける景観保全並びにまちなか周遊観光バスが大変素晴らしいものであると感じた。

景観については、富岡製糸場にある最も高い施設よりも高い建物を建てられないといった

条例が設定され、その他4つのゾーンに分類して、製糸場周辺を特定景観計画区域として市民と対話を重ね環境づくりを進めている。また、周遊観光バスについては、乗車運賃ならぬガイド料と称した、まちなかボランティアガイドによる様々な見どころを案内してくれるバスが100円で乗れる。さらに、環境に配慮した電気自動車を採用している点も非常に魅力を感じる。

本市としても、様々な文化遺産や観光資源があるなかにおいて、世界遺産を目指すのは様々な課題があると思われるが、風化させることなく、まちの魅力として後世に紡ぐためにも、市民との対話を通して、魅力の発掘や保全に向けた取組みについて天童市全体で方向性を考える必要がある。

3. 栃木県那須塩原市「議会改革について」

生乳生産本州一的那須塩原市が、平成19年4月に議会活性化検討委員会を立ち上げ、今日まで議会基本条例の制定、議会報告会の実施、議員定数削減、議会倫政治理条例の制定など、これまでに数多くの議会改革を進めている。その中から今回は、「議会の見える化、開かれた議会、議会改革の取組みについて」、「議会基本条例の検証と議会取組実行計画について」、「オンラインによる常任委員会等の開催について」の3つの施策について学んだ。

まずはじめに、「議会の見える化、開かれた議会、議会改革の取組みについて」は、本市同様に議会報告会及び小中高生との意見交換会、議会報を展開するほかに、議会を知るきっかけとして、那須地区で活動するアーティストによる議場コンサートを年2回開催している。

特筆すべき点として、気軽に議場に来てほしいという思いから、本議会における傍聴人名簿の記入省略している点と、タブレットの導入に伴い、議場・委員会室にPCやスマホの持ち込みを可能にしている。議場内で私的に使用することや着信音が鳴る等の大きなトラブルはこれまで発生したことはなく、情報検索や資料作成に大いに役立てられているとのことである。本市としても検討すべきであると考えている。

次に、「議会基本条例の検証と議会取組実行計画について」は、平成29年に早稲田大マニフェスト研究所が発表した全国地方議会改革度調査で全国15位に入り、令和元年には第14回マニフェスト大賞の議会部門最優秀マニフェスト推進賞を受賞する等、市民との対話と共有を最優先に議会改革に取り組んでいる。また、議会基本条例の検証を行い、目標・実績・課題・改善を明確にするとともに定期的な検証作業を行っている。

特筆すべき点としては、やはり議会の検証作業が挙げられる。単なる検証作業ではなく、議会改革を進めるうえで議会力向上、政策形成の2つのサイクルの検証を行い、自己評価(会派ごと)⇒PDCAサイクルシートによる目標・成果・改善点の整理⇒第三者による外部評価(早稲田大学マニフェスト研究所他)⇒検証作業のまとめ及び検証資料の公表の流れで取り組んでいる。また、基本条例についても全22の条項すべての検証を行っており、徹底した対応と取っていることに議会のやる気を感じた。

本市としても、議会すべてにおける検証は近年は無いため、開かれた議会を目指すうえで、今回の那須塩原市の取組みは今後取り入れる必要があると考える。

最後に、「オンラインによる常任委員会等の開催について」は、令和2年3月にタブレット端末の本格導入にはじまり、翌月からFaceTimeを使用したオンライン会議を実施し、近年ではZOOMを活用して、会期中に各常任委員会それぞれ最低1日間はオンライン会議開催を義務付けて行っている。また、オンライン以外でもYouTubeを活用した議会報告会の周知用PR動画制作をはじめ各種活動報告を行っている。尚、オンライン会議用の資料作成やYouTubeの動画制作すべては議員が行っていることに驚いた。

本市もICTを活用したオンライン会議やYouTube等による広報活動が今後必要になると考える。

今回の那須塩原市の議会改革を拝聴して、非常に優れた議会改革を行っていると思う一方で、若手議員主体に進められていることに刺激を受けた。“挑戦なくして成功無し”という言葉があるように、多少強引なやり方でも市民に対して何をすべきかを明確に捉え行動し、会派や政党等の域を超えて、議会全体で行うことが本来の議員に求められていることでは無いのかと考えさせられました。本市の議会改革においても、市民が議会に対して何を求めているのかを対話を通して進めていくとともに、今まで以上に開かれた議会となるよう精進したいと思います。

研修会等 参加報告書

令和4年10月7日

天童市議会議長様

天童市議会

議員氏名 古澤義弘

下記により、研修会等に参加したので報告します。

記

研修会等名	
主催団体名	
日時	令和4年9月26日(火)
会場・場所	埼玉県熊谷市役所
内容等	シティプロモーション及び移住定住の促進について ・定住人口増加のための固定資産税等の課税免除 ・3世帯ふれあい家族住宅取得等応援事業 ・大好き熊谷、新幹線らく賃通勤事業 ・結婚新生活支援事業 ・スマートハウス補助金 ・誕生祝金支給事業
感想	生活に関連した事業・出産・子育て支援事業・教育事業等で様々な施策をやっておる中において、本市の施策と同様の補助事業等とも重なる部分もあると感じた。しかし、子育て応援自転車お出かけ事業での自転車購入への補助金制度や、新幹線を利用した通勤事業は、当市での子育て事業や定住事業に役立てる事が出来るのか検討の余地があると考えます。

研修会等 参加報告書

令和4年10月7日

天童市議会議長様

天童市議会

議員氏名 古澤義弘

下記により、研修会等に参加したので報告します。

記

研修会等名	
主催団体名	
日時	令和4年9月27日(水)
会場・場所	群馬県富岡製糸場
内容等	世界遺産、富岡製糸場を生かしたまちづくりについて、をテーマに製糸場の施設を見学してきた。
感想	<ul style="list-style-type: none">・ふるさと納税での返礼品は、ゴルフ利用券が6割~7割を占めているとの事、又、現在は、繭農家は7件に減少したとの事。・世界遺産への登録区域内は、適切な保護措置及び管理体制が整っている事。そして緩街地域を設け、都市計画法、景観法、景観条例で、建築物の高さや、色彩にも様々な制限がある。・当市においても文化遺産が建てられている地域とか、日本遺産に認定された紅花文化を守って行くための地域整備等にも、本市としても力を入れて行かなくてはと感じた所です。

会派先進地視察等報告書

令和4年9月26日～28日

佐藤孝一

熊谷市 シティプロモーション及び移住定住の促進について

住宅の新築や住宅購入での固定資産税等の課税免除制度は、アンケートでは移住の決め手のなったとの回答が3割と、一定の効果があり、本市でも参考にしたい。

カーボンニュートラルを目指す本市でも、スマートハウス関連の政策などは参考になり今後の政策提言に生かしたい。

富岡市 世界遺産・富岡製糸場を生かしたまちづくりについて

世界遺産登録前のまちづくりは平成9年に都市計画決定告示され、施工予定期間平成14年から平成27年であったが世界遺産登録エントリーを機会に公共施設充当予定地の先行取得のみで都市計画廃止を決定し、まちづくりの手法を地域資源（歴史的な建築物である富岡製糸場）を活かしたまちづくりに転換しゾーン別に景観形成基準を設け規制をしている。リフォームやリノベーションで古民家の再生をし、官民連携によるリノベーションまちづくりに取り組んでいる。本市でも空き家対策等で参考になるのではないかと。

那須塩原市 議会改革について

議会報告会での取組みは試行錯誤を重ねながら平成24年より開催。

ふれあいトークの名称で開催され1部議会報告会2部意見交換会の2部構成になっている。コロナ禍ではオンラインにより開催しており、本市でも参考にしたい。

高校生との意見交換や、中学校への出前講座など行政や議会の理解を深める取組みは本市でも継続していくべきだ。

オンラインによる委員会開催をしており導入について参考にしたい。

議会基本条例を検証する手法はおおいに参考にしたい。